



田中 京子 議員

# 本市の女性の

## 活躍促進を

**問** 農産物の放射性物質検査の結果を市はどのように捉えているのか伺います。

**答** 出荷用の農産物については、米の全量全袋の検査及び県、市で行っているモニタリング検査等により、全て基準値を下回っていることから、食の安全については確保されていると捉えております。自家消費用の農産物も市内各所で検査できる環境を整えて、安全確保を図っております。  
**問** 今後も放射性物質検査を継続すべきだと考



戻りつつある自家消費農産物(原町区)

えるが市の考えを伺う。

**答** 引き続き国、県に対して継続できるような要望してまいります。

**問** 農業における女性の活躍について、市はどのように推進していくのか伺います。

**答** 市内の農業の現場を見ますと、直販所への出品者の状況などから、多くの女性が活躍していることが伺えます。加えて市では、すぐれた農業経営人材の確保、育成を図るため、南相馬市農業復興チャレンジ塾を開催しており、現在32名の塾生のうち6名の女性が

在籍しております。

このようなチャレンジ精神にあふれる女性を取り上げ、広く周知することで、本市で農業に取り組みたいと考える女性を増やしていく考えです。単なる農業の担い手ではなく、女性ならではの視点や感覚による商品づくりへの支援なども通じ、女性の活躍を後押ししてまいります。

### 質問を終えて

女性が輝けば、農業も地域も元気になれるのです。女性に対しての支援策の強化を！

#### その他の質問

① 女性の輝くまちづくり

② 女性が活躍できるまちづくり



岡崎 義典 議員

# 公共交通の整備は

## 喫緊の課題

交通安全対策について

**問** 運転免許証の自主返納を推進することで返納者数が増えているが、その裏側には泣く泣く返納した市民がいることを忘れてはならない。

**答** 現在、定額タクシーの実施に向けて努力しており、しっかりと対策を講じていきたいと思います。

**問** 高齢化率48・8%の檜原村では、高齢運転者向けに自動ブレーキを備えた新車購入への補助を始めた。このような取り組みを検討すべきと考えるが。

**答** 教習所にて、自動ブレーキ等を備えた安全運転サポート車を使った実技指導を行っている。補助については今後検討していきたい。

公共交通の整備について

**問** 市民福祉の視点で公共交通を整備すべきと考えるが。

**答** 4月に総合交通担当係長を設置し、10月には公共交通移動支援に関する庁内会議を立ち上げ、庁内一丸となって情報共有や課題の整理、連携に向けた検討を重ねている。

**問** 目指すべきは車依存の社会から、車と公共交通が共存する地域



交通弱者の足を支えているジャンボタクシー

域。路線バスで言えば、高等学校や商業施設、病院など実情に応じた路線や停留所の変更など、利用し慣れていない市民への施策が必要ではないか。

**答** 効率的な路線の変更に向け調整している。

### 質問を終えて

交通安全は市民生活部生活環境課、公共交通は復興企画部企画課。組織の再編をすべき。

#### その他の質問

① 高齢運転者による交通事故について

② ソーン30への取り組みについて

③ 第10次交通安全計画について



渡部 一夫 議員

# 放課後児童支援員の運用は

**問** 2015年4月より「子ども・子育て支援新制度」が実施され、学童保育（放課後児童クラブ）の指導員に対する専門資格「放課後児童支援員」等が新しく創設された。そこで、本市における運用について伺う。

**答** 市内17カ所の放課後児童クラブで児童の育成及び指導に当たる職員44名のうち、子ども・子育て支援制度で規定する県の研修を受講した放課後児童支援員は30名となっている。今後も児童の健全な育成を図るため、全ての職員が研修を受講し、放課後児童支援員の資格を得られるよう対応していく。

**問** 「放課後児童支援員」の創設により、学童保育はどの様に変わっていくのか伺う。

**答** 日常の指導員の役割は、表面的には子供たちの宿題を見たり遊んであげたり、またはおやつや準備など、生活と遊びと両方の支援をしていくのが主な仕事になっていく。さらには、放課後の子供たちの安全を確保するために、親が安心して仕事を続けられる環境を提供するような役割が大きなものとなっているが、これらを実施する



上町児童クラブ（原町区）

る上では、学校と連携を図り、児童の状況を把握して適切な指導も行っていきたい。また、保護者からの情報を学校のほうに提供する仲介的な役割を担い、児童虐待の早期発見とか、児童相談所等の関係機関との連携といったようなところも大きな任務となっている。

**質問を終えて**  
教育、医療・福祉の充実等がなければ、南相馬市の展望を切り開くことは難しいと思う。

### その他の質問

- ① 子ども・子育て支援について
- ② 非正規労働者の無期転換ルールについて
- ③ 市税減免に伴う減収補てんについて



小川 尚一 議員

# 平成30年度に向けた取り組みは

**問** 基本計画の実現に向けた課題について。

**答** 生産年齢人口の拡大を最重要課題として、震災前と比較して、約1万3千人の生産年齢人口が減少した中、この課題解決が必要不可欠である。市の年少人口、生産年齢人口拡大に向けた市内プロジェクト会議を設置し、部局横断で課題解決に向け取り組んでいる。

**問** 成果となる具体的なものについて伺う。

**答** 幼稚園、保育園の無料化も1つの手段として、除染が進んだ中



空き店舗が目立つ中心市街地

で安心できる生活子育て支援をしていただきたい子育て世代を中心に施策展開してきました。また、地元の農業者のチャレンジ塾の塾生の育成や、みらい創造塾の塾生の育成、農業復興大学で大学生がフィールドワークできるように環境整備、加えてロボットテストフィールドも含めた新しい産業の創出を推進してきました。小高産業技術高校については、私は統合するに当たり最低限の条件としてクラスを増やすことを要望した。このよう

な具体的な施策も同時に展開してきた。

**問** 市民意識調査の力を入れるべき分野で、中心市街地の活性化が55・3%と高いが、どのように取り組むのか。

**答** 中心市街地は市の玄関口、顔であり中心市街地の賑わいがまち全体の賑わいを創出すると考え、活性化に向け積極的に取り組む。

**質問を終えて**  
これが出る頃は、将来を委ねる市長が決まっていることでしょう。

### その他の質問

- ① 再生可能エネルギーの積極的活用
- ② 高齢者の生きがいづくりや居場所づくり
- ③ 民間の保育士等の人材確保に向けた支援